

こすもスマイル 70号

発行：小林市立病院 地域医療連携室 令和6年12月

～看護部長のあいさつ～



酷暑といわれる長い夏がやっと終わり、朝夕の涼しさにやっと短い秋を感じられるようになってきました。10月後半は雨の日が多く、星空が美しい小林市にしながら8万年ぶりに地球に接近した、話題の紫金山・アトラス彗星を観ることはできませんでした。

今年度は、1年ぶりに2名の新人看護職員を含む6名の新規採用者が入職しました。また、7月には訪問看護ステーションを開設しました。

経験者が少ないなか、スタッフ6名で試行錯誤しながら頑張っています。他部門のスタッフの協力もあり『働き方改革』も少しずつ進んでいます。ワークライフバランスを充実させ、良い看護提供につながるようスタッフ全員で尽力したいと思います。

さて、日本では毎年のように、また世界各地でも自然災害が発生しています。先日の日向灘沖の地震では、気象庁から初の『南海トラフ地震臨時情報』が発表されました。災害医療支援といえばDMATの活動がよく知られていますが、日本看護協会（JNA）も、災害支援ナースを自然災害および新興感染症拡大時にも対応できるよう、JNAおよび都道府県に登録して派遣できるような仕組みを構築しています。当院には現在5名の災害支援ナースがおり、今年新たに3名のスタッフが研修受講する予定です。備えあれ憂いなしとはいいますが、派遣の必要がない穏やかな日々であることを祈るばかりです。

最後になってしまいましたが、当院では感染症拡大防止と安全対策のため、引き続き面会制限をしております。不自由をお掛けしますが、患者さんおよびご家族の皆様のご理解とご協力に感謝いたします。

小林市立病院 看護部長 武田 愛

【理 念】

「安心、安全で信頼される病院を目指します」

【基本方針】

- ◎ 西諸の中核病院として、地域の医療機関と連携し、高度な医療を提供します
- ◎ 職員一丸となって、迅速な対応とチーム医療で、安全な医療を提供します
- ◎ 誠実かつ真摯（しんし）な姿勢で日々研鑽（けんさん）に努め、信頼される質の高い医療を提供します
- ◎ 自治体病院として、平等で心が通い合い、安心できる快適な療養環境を提供します
- ◎ 患者様と家族の満足を追求し、プライバシーの保護をはじめ患者様の権利を尊重します



救急科・総合診療科紹介



当科に救急専門医が常駐して3年半、常勤医が2名になって1年半です。COVID-19の大流行も収まり漸く外来患者さんの総数は減りましたが、週末を除き救急専門医あるいは専攻医による途切れない救急対応ができております。西諸県全域からの転院搬送を含めた当院の救急車対応率は約80%(昨年度は73%)に増加しています。救急隊や周辺医療施設との連携で応需の適正化を図ることで、緊急度が高い患者さんの比率は20%前後を維持しており、新規入院が必要な患者さんの数も増えてきました(本年6ヶ月は26人/月、昨年は18人/月)。

軽症患者さんの対応に追われ緊急度・重症度が高い患者さんの応需ができないと本末転倒になってしまいますので、救急車の要請もふくめ救急外来の適正利用を引き続きお願いします。なお当院の内科医不在状態は続いているため、平日日中の内科的慢性疾患に対する対応は他院にお願いせざるを得ない事をご了承ください。

今後はピックアップ方式でのドクターカー運用を西諸広域消防と合同で行っていく予定で、条件付きながら病院前への医療投入にもご協力できるようスタッフ一同で準備を進めております。

救急科・総合診療科科長 遠藤 穰治



外来紹介

今年もあとひと月となりました。街のあちこちでポインセチアが目につき、クリスマス一色、シングルベルの楽しい音楽が聴かれる季節ですね。

今回は、BLS (Basic Life Support・心停止状態の人に対して行う一時救命処置) について院内の取り組みを紹介します。BLSの手技は、胸骨圧迫・気道管理・人工呼吸・AED使用です。当院では、救急医、院内救急救命士、救急認定看護師、クリティカルケア認定看護師、ICLSインストラクターが主体となり、院内すべての職員に対して日本救急医学会が認定するBLSコース(120分)を開催しています。昨年度の実働職員211名に対し、95%の200名が受講しました。予想しえない場面に遭遇した場合でも、落ち着いて救命処置を行えることが大切です。しかし、知識や技術は時間とともに薄れていきます。定期的かつ継続して行うことで、技術の維持向上を目指し、毎年100%の受講を目標にしています。

外来ではこのほかに、不定期ではありますが、ICLS (Immediate Cardiac Life Support 突然の心停止に対し直ちに対応する) 蘇生教育コースも開催しています。院外や私生活において遭遇する場面があるかもしれない、“いざ” に対して日々学んでいます。



外来看護師長 橋爪 由美

臨床検査室紹介



当院の検査室には臨床検査技師が5名在籍し、血液検査をはじめとする検体検査や、心電図・超音波検査のような生理検査など多種多様な検査業務に日々取り組んでいます。

今回は新型コロナウイルスの検査についてお話ししたいと思います。

新型コロナウイルスの検査にはリアルタイムPCR法やランプ法による検査、抗体検査など様々な種類があります。この検体の処理や検査をしているのが私たち臨床検査技師です。当院では空港の検疫などにも使用されている機械による抗原定量検査と、迅速に結果が報告できる抗原定性検査の2種類を採用しています。皆さんは新型コロナウイルスの流行時期に、当院だけでどれくらいの検査が実施されたと思いますか？例えば2022年では年間5,541件、1ヶ月では最高1,070件の検査を実施しました。新型コロナウイルスが5類感染症となった今でも病院内では継続して感染対策が徹底されており、検査室は今後も院内感染管理や感染の早期発見に貢献していきます。

臨床検査技師として皆さんに直接関わる機会は少ないですが、これからも専門的な知識や技術を生かし、新しい検査の導入にも柔軟に対応してより良い医療を提供できるように努めて参ります。

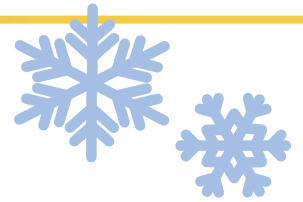
臨床検査技師 飯田 裕美



西諸華道連盟の皆様、
素敵なお花をありがとうございます。



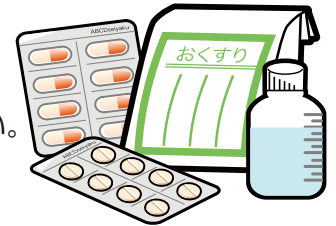
薬剤室紹介



薬剤室では、薬剤の適正使用推進のため他職種と連携し取り組み、入院・外来に関わらず地域と連携し切れ目のない医療体制を目指しています。

薬に関する代表的な質問例を記載していますのでご覧ください。

その他、薬剤に関する疑問がある場合は、薬局や病院の薬剤師にご相談ください。



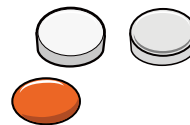
食事や薬を飲むタイミングなどに注意はありますか？

薬を飲む際には、食事の内容やタイミングが薬の効果に影響することがあります。食後は30分以内、空腹時は食前1時間前、または食後2時間後に服用するのが理想的です。特定の食品(グレープフルーツ、乳製品など)は薬の効果を変えることがあるため、服用時の注意をよく確認するようにしましょう。

古くなった薬は使えますか？

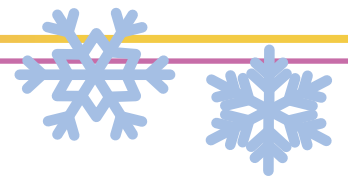
食品に賞味期限があるように、薬にも有効期限が設定されています。薬剤によって異なりますが製造から3~4年間であることが多いです。

期限切れの薬は成分が時間とともに分解され、本来の効果を発揮できなくなることがあります。また、成分が変わって、悪影響を及ぼす可能性があり安全性にも問題があることも考えられます。特に、液体やクリーム塗りの薬は、劣化しやすいので、注意が必要です。3年以上前の古い薬が手元にある場合は、使用せず新たに処方してもらうようにしましょう。



薬剤室室長 石橋 直哉

スタッフのひとこと



今夏は記録的な猛暑でした。やっと夏の暑さが和らいで一番好きな季節の秋が来たかと思っておりましたが、あっという間に師走に入り寒さも本格的になりました。

新しい年を迎えるにあたり、大掃除とともに部屋の模様替え、来年に向けて断捨離しよう！と思う今日この頃です。

年末に向けてご多忙な日々をお過ごしのことと存じます。寒さが厳しくなっております。お体にお気をつけて良き年をお迎えください。

医師事務作業補助者 石橋 加奈枝

連絡先

小林市立病院 地域医療連携室

TEL 0984-23-8225 (直通)

FAX 0984-23-8226

Mail k_hosp4@city.kobayashi.lg.jp

